



2025年3月8日[土]——4月13日[日] * 4月1日[火]より一部作品に展示替えがあります

開館時間 | 9時30分——17時（入館は16時30分まで） 休館日 | 月曜日

観覧料 | 一般650円、大学生450円 * 高校生以下は無料 * 65歳以上、障がい者割引あり(要証明書)

主催 | 板橋区立美術館、東京新聞

板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27

Tel: 03-3979-3251 Fax: 03-3979-3252

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>



黒からみる江戸絵画

エド
イン
ブラック
3/8 SAT 2025 4/13 SUN

板橋区立美術館



「黒」は何にも染まらない特異な色といえます。日本絵画においては、古くから欠かすことのできない要素の一つでした。多くの人が絵を楽しむようになった江戸時代には、絵画表現が広がり、黒は多様に用いられました。本展覧会では、黒に焦点を当て、江戸絵画にみる黒の表現とともに、当時の文化や価値観などもご紹介します。

黒と聞いて夜を思い浮かべる人も多いでしょう。月夜の情景や人々の暮らしの様子といった夜を描いた作品の中でも、影や暗闇などの描写に注目し、黒がどのように用いられたのか探ります。また、背景を黒く塗り込んだ作品や、黒を基調とした「墨彩色」・「紅嫌い」と呼ばれる趣味人たちに好まれた浮世絵などから、それらが何を象徴するのか検討します。

暗闇の中でわずかな灯りとともに作品を鑑賞するコーナーでは、普段の美術館では味わえない金屏風の柔らかな輝きによる美しさをご堪能ください。

江戸時代の人々は「黒」に対して何を見出し、何を感じていたのでしょうか。様々なテーマから江戸絵画における「黒」を探求し、その魅力に迫ります。

黒から何をみる？ 展覧会のみどころ

夜は黒なのか

古くから夜は月や霞などで示され、一見すると昼との区別が難しいことがありました。しかし、江戸時代になると夜の時間を楽しむ人が増え、その描写も多様に展開します。「影」や「暗闇」などに注目し、夜という特別な時間を表現した絵師たちの創意工夫をご紹介します。



交通案内

- 徒歩
都営三田線「西高島平駅」下車約14分
- 路線バス(1時間に1～2本程度、所要時間約10分)
 - ①東武東上線「成増駅」北口2番のりば
「増17 区立美術館経由 高島平停車場」行き「区立美術館」下車
＊東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」5番出口も利用可
 - ②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば
「増17 区立美術館経由 成増駅北口」行き「区立美術館」下車
- タクシー
東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分

関連イベント

講演会 「墨」：日本美術のなかの黒
日時 3月16日(日)14時—15時30分(13時30分開場)
講師 島尾新氏(元学習院大学教授、『國華』編集委員)
定員 60名(当日先着順)
参加費 無料

講演会 黒からさぐる江戸絵画
日時 3月29日(土)14時—15時30分(13時30分開場)
講師 印田由貴子(板橋区立美術館学芸員)
定員 60名(当日先着順)
参加費 無料

■ワークショップ「ようこそ 墨一色の豊かな世界へ 墨絵を描きましょう」
日時 3月9日(日)14時—16時(13時45分開場)
講師 小林東雲氏(水墨画家)
定員 15名(要事前申込)
参加費 500円
申込方法 2月22日(土) 午前9時より
電話(03-3979-3251)にて受付開始

■学芸員によるギャラリートーク
3月22日(土)、4月5日(土)
各回14時から30分程度
参加無料(ただし展覧会の観覧券が必要)、申込不要
当日2階展示室に直接お越しください。



黒が演出する神秘的な美しさ

電灯の無かった江戸時代には、時間帯や天候などによって作品の見え方は変化しました。暗がりの中では、絵画はどのように見えていたのでしょうか。蠟燭のような灯りの中で金屏風をご覧ください。

「私は黄金と云うものがあれば沈痛な美しさを見せる時はないと思う。」
——谷崎潤一郎『陰翳礼讃』より

黒が象徴すること

黒という色は人々に様々なイメージを想起させます。黒を特徴的に用いた作品より、そこに象徴されるものを検証します。また、化粧文化から、黒によって示される美しさや独自の価値観も探ります。

黒の背景＝中国的イメージの展開 あえて黒！趣味人たちに好まれた浮世絵



異界の者・聖なる者＝黒、遊女や女性＝彩色の描き分け 今とは違う女性たちのメイク

